

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初の職員で作成された「私たちの理念」を、毎朝の朝礼時に皆で唱和し実践に繋げている。	法人の理念があり、それを基にグループホームゆきんこの理念を「私たちの理念」とし、フロアや玄関に掲げ、朝礼時に唱和している。職員は、3つの理念の内の一つを、自己目標として掲げ、達成に向け努力している。利用者の一人一人がその人らしく暮らせるよう、日頃の業務を通し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の朝清掃に参加。地域の祭りに事業所全体で参加している。また、事業所の行事には地域の方を招き、ボランティアに来て頂いている。オレンジカフェを不定期ではあるが行い、地域の方に改めて、施設を知っていただく機会を作っている。	地域祭りの招待や、町内清掃には声をかけてもらい、参加している。また庭に咲いている花を届けてくれる等、近所との交流が自然に出来ている。今年より、不定期で「オレンジカフェ」を開催、参加者も増えて来ている。出入りし易い玄関を会場としているため、冬場は暖房面等、開催が課題となっているが、今後も継続して行く方向で検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から地域ボランティアに施設に来ていただき、利用者とふれあい、認知症の理解をいただいている。一緒に行事に参加し、交流を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回、奇数月に開催し、意見や要望は職員皆で具体策を話し合いサービス向上へ繋げている。	家族全員に案内状を出し、2ヶ月に1回の頻度で開催している。参加者は2～3名。地域包括職員の参加もあり、貴重な意見を頂く場としている。時には施設の行事と抱き合わせで開催し、参加者の増を図っている。今後は地域の方(区長、民生委員)や利用者の参加等を検討しながら、充実した会議となるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を開催したり、不明な事や相談事を市の担当者に連絡を取り、解決に繋がるよう連携を図っている。	運営推進会議のメンバーとして、地域包括職員の参加があり、対応が難しい利用者の件で、解決に向けて相談に乗ってもらう等、困難事例への対応や、介護保険制度上の相談事等、協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で高齢者虐待・身体拘束廃止委員会を設置し、事業所・法人全体で、勉強会が行われ、認識を持って業務に取り組んでいる。	身体拘束についてのマニュアルが作成され、防止に向けた3か条を毎朝唱和している。また研修会に参加するなど、身体拘束をしないことを前提とした介護に取り組んでいる。法人内に虐待防止委員会があり、法人を含む事業所全体で身体拘束の廃止につなげている。センサーマット等の使用例はなく、日々の学びを通して、身体拘束を行わないケアの実践に努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束廃止委員会を中心として、勉強会の実施、独自のアンケートを行い、自己のケアの振り返りを行っている。	身体拘束と併せ、虐待防止委員会が法人内にあり、全職員が研修会に参加し、虐待につながる不適切ケアについて学ぶ機会としている。委員会が参加状況を把握し個々の記録として残している。防止マニュアルも作成されており、起こさないための工夫、起きた時のフローチャートが活かされている。労働環境は、ストレスチェックが年1回実施され、法人の保健師と健康相談等が出来るなど、心的ケアの体制作りに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得の際に研修で学んでいる。利用案内の説明文及び契約書に分かりやすく示し、利用者及びその家族に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもちろん、料金改正や加算など、説明し同意をいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、家族に顧客満足度のアンケートを実施している。直接言いにくい事も書いていただけるようになってきている。その、結果や要望について、話し合いケアの向上や運営に反映させている。また、随時利用者や家族に意見や要望がないか聞いている。	家族へ向け、年1回無記名でアンケートを実施しており、貴重な意見を聴く機会としている。今回は難しい検討課題等は無かった。アンケートの結果は、玄関前に掲示され、マイナスの意見も公表しており、透明性の高い施設運営を目指している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の部署会議や面接の他、ミーティングなど話し合いの場を設けている。意見や提案は必ず反映できるよう話し合いを行っている。	「個々面談」という形は取らず、日々のさりげない会話や声掛け等、日頃の職員の表情、態度の変化には注意しながら対応している。複数で、話しやすい環境を心がけ、本音や、貴重な意見を聞く機会とし、現場の声をより多く取り上げるように努力している。必要に応じて、個別の課題と向き合うよう、聞く機会の工夫に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場の状況を把握し、職員の努力や実績、勤務状況も理解している。また、個々に面接を行い問題や悩みを聞き解決に向けた助言を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の教育委員会があり、新人職員には育成担当者を付け、チーム全体で育成している。希望する研修には参加出来るよう、勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人のグループホーム連絡会があり、2か月に1回、定期的に交流、情報交換の機会を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や困りごとはあるか、望む生活をお聞きし職員間で話し合い、本人が安心できるような環境づくりや、関わりを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になり、話を傾聴し、不安や困りごとを把握し対応できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前事前面接から初回プランを作成し、2. 3週間後状態を見ながら初回プランの見直しを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活するという意識を持ち、本人の出来ること、得意とすることを支援し、役割を持っていただき、介護される側、介護する側ではなく、助け合うようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に報告や相談を行い、要望などをお聞きしながら、協力をいただきながら本人を支えるようにしている。	受診時等、可能な場合は家族に協力を頂いている。また面会等、施設にに来て頂いた時、要望を伺い、共に本人の生活上の課題について検討をする機会を設けている。現在の状態について、主治医に分かりやすく説明してもらうなど、今後も望む生活の継続に向け、良好な関係が維持出来るよう連携の強化に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、手紙のやり取り、面会時にはゆっくり話せる場の提供を行っている。	家族へ、毎日手紙をしたためている利用者もあり、継続が出来るよう支援している。主治医については、継続を基本とし、入居前からの主治医にかかっている方がほぼ半分以上を占めている。本人、家族の意見を尊重しながら。美容院、理容院を含め、今までの関係性が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を把握しており、時に職員が間に入り利用者同士が楽しく過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後について、家族様が不安に感じた時や、入院時など、必要時には病院や次の入居施設などと連絡を取り合い、相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思い、希望の把握に努めている。困難な方には家族様からの情報を収集やアセスメントから把握できるよう努めている。	本人自身の言葉で、思いや希望を表現出来る利用者は、約半数おられるとのこと。言葉等で表現できない時は、出来るだけそれらの思いに添えるよう、家族に聞き取りを行ない、支援を組み立てており、本人・家族の意向把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わり、家族様からの話の中で、これまでの生活の把握に努め共有している。また、センター方式シートを、家族様にご覧いただきことでこれまでの生活を把握できるよう行っている。	センター方式のアセスメントシートを一部使用し、利用者家族からの記入や聞き取りと併せ、思いや意向の把握に努めている。また日々の電話や訪問時の会話を通して、これまでの生活状況の把握や今後に向けての希望などを聞き取り、把握に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りの中などで共有し、把握している。必要に応じてミーティングを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行っている。本人や家族からの意向や希望も確認し、他職種からの意見も聞き、本人の状態に応じてプランに反映している。	本人や家族から想いを聞き取り、3ヶ月に1回定期的にモニタリングを行ない、6ヶ月に1回見直しを実施し他職種からも意見を得ている。	電話で家族から要望をお聞きしたり、家族の面会日に聞き取りして意見を取り入れようと努めている。今後は、出来るだけ利用者がカンファレンスに参加する事により、本人の言葉や希望をくみ取り、プランに反映される事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実施状況や気づきを記録に残し、情報を共有するとともに介護計画書の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの看取りを家族様、医師等との連携により、行うことができています。本人の状態、希望、家族様の要望などに柔軟に対応できるよう他部署への相談、協力をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌謡ショーなどのボランティアに来ていただいたり、災害時の地域の方からの協力体制が整えられている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居前からのかかりつけ医のある方は、継続して受診を行っている。また、その時々状態に合わせ、家族様、主治医と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医師を継続して受診している利用者も多く、協力病院とも良い関係性が出来ている。必要時、職員も家族と共に同行し、かかりつけ医師に必要な情報を伝え支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調チェック表にバイタル測定値を記入し、看護職に定期的にチェックを行ってもらっている。また、日常のわずかな変化も気付いたことは、相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診、入院時には普段の様子も伝えている。入院中の経過も確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期になっても、可能な限りグループホームで暮らしていける支援が出来るよう本人、家族様と話し合っている。主治医とも相談しながら、グループホームで出来ることを、本人、家族様、医師と連携を取りながら行っている。	現在、全介助の利用者が複数名おられるとのこと。可能な限り継続して生活が続けられる事を望んでいる家族もおられる。今後も看取りについての確認や体制作りと共に、事業所全体で出来る事を増やしながら取り組んで行きたいと、ターミナルの研修(勉強会)を計画している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の講習を受け、基本を学んでいる。マニュアルを作成し確認できるようにしている。緊急時には連絡網を回し、対応できるようにしている。	AEDを使った研修は年2回行なわれ、職員は必ず受けるようにしている。急変時マニュアルや事故発生時のマニュアル・フローチャートも整備されており、リスクマネジメントを含め、定期的に見直がなされている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防署立ち合いのもと、訓練を行っている。訓練時には、地域の災害協力員の方々も参加していただいている。	事業所近くに住む地域の6名の方に「災害協力員」としてお願いし、連絡網を作り、年2回の防災訓練時には、すぐ駆けつけて共に参加する等、協力体制が整っている。2階からの車椅子での避難訓練は2人の職員で、実践的に行なっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに合った対応や声かけをし、考え方を尊重しながら関わりを持つようにしている。	法人委員会主催による、研修会が定期的に行なわれ、プライバシーに関する研修会に職員は参加している。マニュアルの確認や職員への意識づけなど、実践的な学びがなされている。今回はスマホに関連した学びの中で、利用者の尊厳や人格に対する尊重等、継続した取り組みが行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心がけ、本人の希望や思いを言いやすい環境を作りを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中で個々の意思確認をしながら出来る限り希望に添えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室に行ったり、髪染めを行ったり、その方らしくいられるよう支援している。必要時には、介助を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れ、旬を感じながら食事を楽しんでもらっている。また、その方に合った役割を行っていただけるよう支援している。	訪問時には、彩りよく、季節の食材料が提供されており、「食事の時間を楽しみにしている」との利用者の言葉もあり、表情良く利用者の多くは完食されていた。夏祭りには、ラーメン屋さんが事業所に来られ、「出来たてのラーメンを食べる」など地域の方の支援も得ている。	訪問時において、利用者の参加による配膳や下膳などの職員と共に行なう、出来ることへの準備や片づけへの参加がほとんど見られず、職員の手で行なわれていた。今後は、職員、利用者が共に食事が楽しみなものになるような、献立表作りや出来ることへの参加を継続して行なえるような支援が期待される。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分量、体調に応じた栄養摂取が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに合った口腔ケアを、声かけやお手伝いを行うことで、清潔の保持を心がけている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お客様おひとりおひとりの排泄パターンを把握し、個々にあった声かけやトイレ誘導を行っている。	出来るだけトイレでの排泄がスムーズに行なえるよう、個別の排泄パターンを把握して、声かけや誘導を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を良くするため、ヤクルトを使用し、排便を促している。腸内活動の衰えのある方には、市販の食物繊維粉末を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聞きながら入浴していただいている。	入浴は週2回を基本にしているが、本人の希望に沿う形でお昼を除いて、午前から午後までの時間で入浴時間としている。同性介護も出来る体制が図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりに合った生活習慣、状態に合った休息・就寝を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用・用法・用量については、全職員が理解している。状態が変化した場合は医師や看護師に相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に合わせた余暇活動や役割を提供している。季節やその時々合った楽しみの提供を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望時に時間を作り、外出している。また、家族との外出、外泊の支援を行っている。	夕方、散歩希望の利用者には、職員もさりげなく同行支援している。ほとんどは事業所周辺が多く、歩くことで落ち着かれる様子が見られるので、寄り添う形の支援が展開されている。家族との外出・外泊時には外出・外泊届け等を提出していただきながら、情報の共有に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながらその方に合った方法でお金を使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来ないところ、わからないところを職員が手伝い支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾や花などを置き、安全面にも配慮しながら環境作りを行っている。	現在、事業所の中は、一部、壁紙張り替え等が行なわれており、装飾品等がはずされ、スッキリとしたかたちである。今後の管理者の構想をお聞きすると、「明るい色調を生かして居心地良い環境を作りたい」と工夫していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お客様同士の関係性を職員が把握しており、声かけや居室への案内で思い思いに過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものや使い慣れたものを持ってきていただき、その方らしい居室作りを心がけている。	利用者はご位牌持参の方や毛布持参など、馴染みの物を使いながら住みやすい形で過ごしている。畳使用の方もおり、写真等が貼られ、過ごしやすく整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂場などには分かりやすいよう表示したり、手すりを設置している。気になる箇所については職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		